



「島根県教育センター開設75周年」

島根県教育センター 教育企画部長 伊藤 尚史



今年、島根県教育センターは開設から75周年を迎えました。

その歴史は第2次世界大戦が終わった3年後の昭和23年にはじまります。3月に教育基本法並びに学校教育法が公布された後、5月には「新教育各般にわたる諸問題を調査研究し、教員の積極的研修を助成して、教育実践の振興に資すると共に、教育行政当局の諮問に答え、あるいは自ら意見を具申して、教育の充実刷新に寄与する」ことを目的に島根県立教育研究所が設立されました。島根県教育委員会の発足よりも半年はやかたようです。

以降、島根県教育センターは教育をめぐる諸課題や教育の本質を研究し、その成果を先生方の研修に生かして本県の教育をリードしてきました。ソ連が初めて人工衛星スプートニク1号を打ち上げ、「スプートニクショック」という言葉が流行した昭和40年代には、めざましい科学技術の発展に対応するために、世界各国で自然科学教育に関心が高まっていきました。そんな中、科学技術や情報化社会に即応するために、昭和46年に島根県立教育研究所が廃止され、理科センターに大きなウエイトがかけられた島根県立教育センターが発足しました。その際、現在の庁舎が建設されましたが、管理部門、教育相談部門・進路指導部門、視聴覚部門とならんで、物理、生物、化学、地学の4分野のそれぞれが実験室や準備室を持つ理科部門も置かれることになりました。年々充実する理科部門の施設設備等は近県はもとより全国の理科センターから羨ましく思われるほどだったようです。昭和48年には情報処理教育センターが設置されましたが、当時、中国地方で一番容量が大きくスピードの速い優れたコンピュータが整備され、ここでも他県からの視察を多く受け入れていたようです。充実した環境のもとで島根県教育センターが推進した理科教育は島根県の科学教育や情報処理教育を牽引し続けました。同じころ、我が国全体でも科学技術が急速に発展し、飛躍的な経済成長をもたらしました。

科学技術について言えば、話題となっているチャットGPTをはじめ、ICT分野でめざましくイノベーションが進んでおり、島根県教育センターが100周年を迎える25年後には予測不可能なほど社会が変化していると言われていています。そうした社会を生き抜く人材を育成するため、中央教育審議会『『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの実現に向けて 審議のまとめ』では「新たな教師の学びの姿」が求められています。また、文部科学省が「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関するガイドライン」を示したことを受けて、島根県教育委員会は「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関する運用の手引き」を作成し、今年度から「島根県教育センター研修情報システム」の運用を開始しています。島根県教育センターは先生方にキャリアステージに応じた資質能力の向上をはかってもらうため、「島根県教職員研修計画」に基づき、ICTの活用を含め、多種多様な研修を整備しております。島根県教育センターはこれからも、教育をめぐる諸課題や教育の本質を研究し、その成果を生かして、先生方が探究心を持ちつつ、自律的に学ぶことを支援してまいります。